



繪本
塙且臣勲功記

二編
壹



櫻澤堂山編輯
一勇齋國芳畫

印果必成

繪本豐臣勲功記 二編

浪華書肆

群玉堂
文海堂



足利十五代之正統
從四位下參議左近衛中將

源義昭公之像

重治之像



前菩提之

城主

羽柴

副師指

竹中半兵衛尉

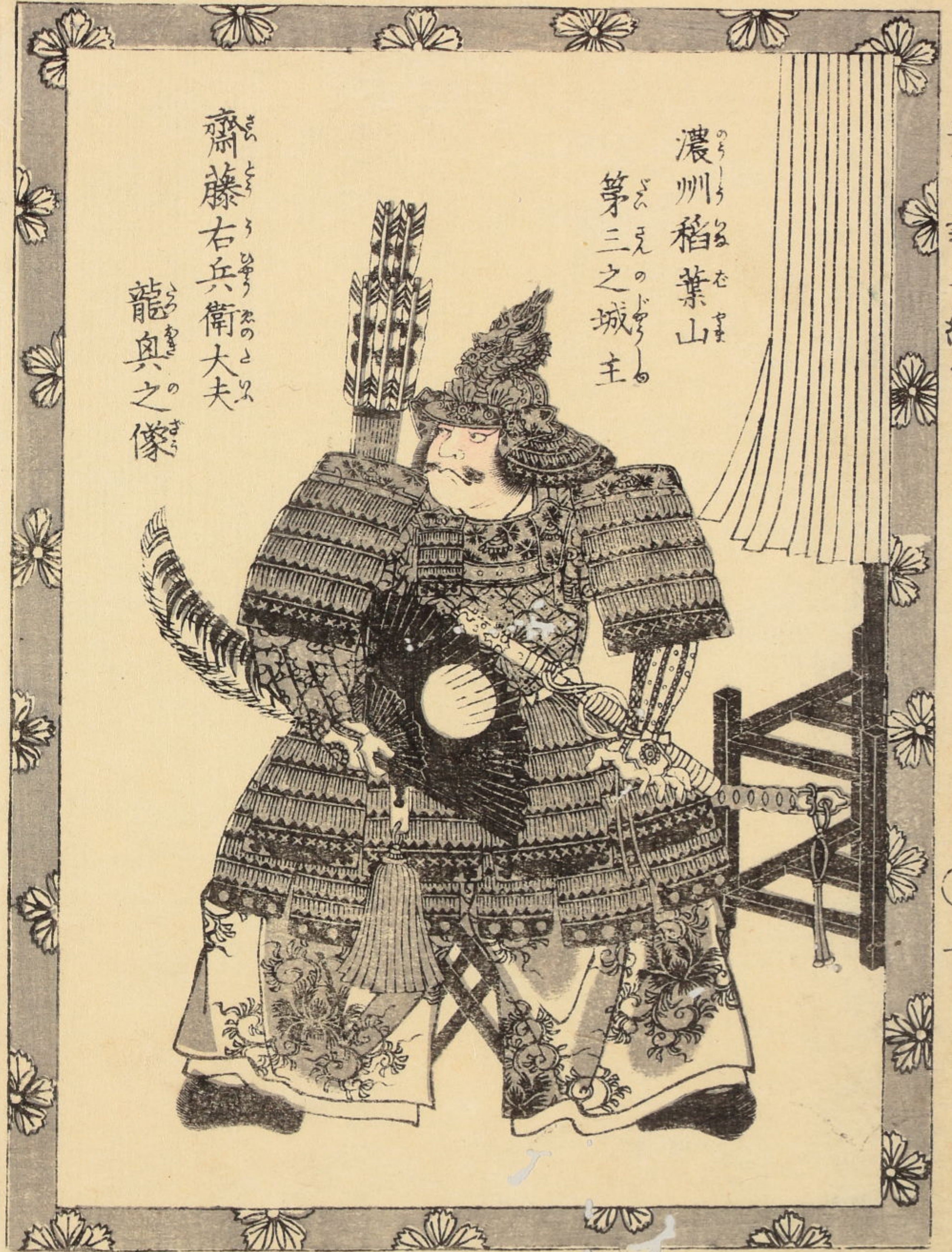
重治之像

濃州稻葉山

第三之城主

齋藤右兵衛大夫

龍貞之像



洲原城主
木下藤吉郎
秀吉之像 出二



堀尾茂助吉晴之像
童名仁丸



江州日野城主

蒲生下野守貞秀

入道宗智之像



蒲生

右兵衛

大夫

藤原

賢秀之像



三編
二編
一編

繪本豊臣勲功記二編

繪本豊臣勲功記二編壹之卷

目録

昭海大高臨邊玄水後勇

属禮使江行

信長兵濃攻本作延旗

属謀海自軍



繪本豊臣勲功記



江南領頭

觀音寺城主

六角彈正少弼

佐々木源氏義賢

入道兼禎

本下藤吉郎所誅五色旗

属 瀧川素江

瀧川一釜竊虛棄棄名城

属 解江防戦



繪本豊臣勲功記二編卷之三

櫻澤堂山 編輯



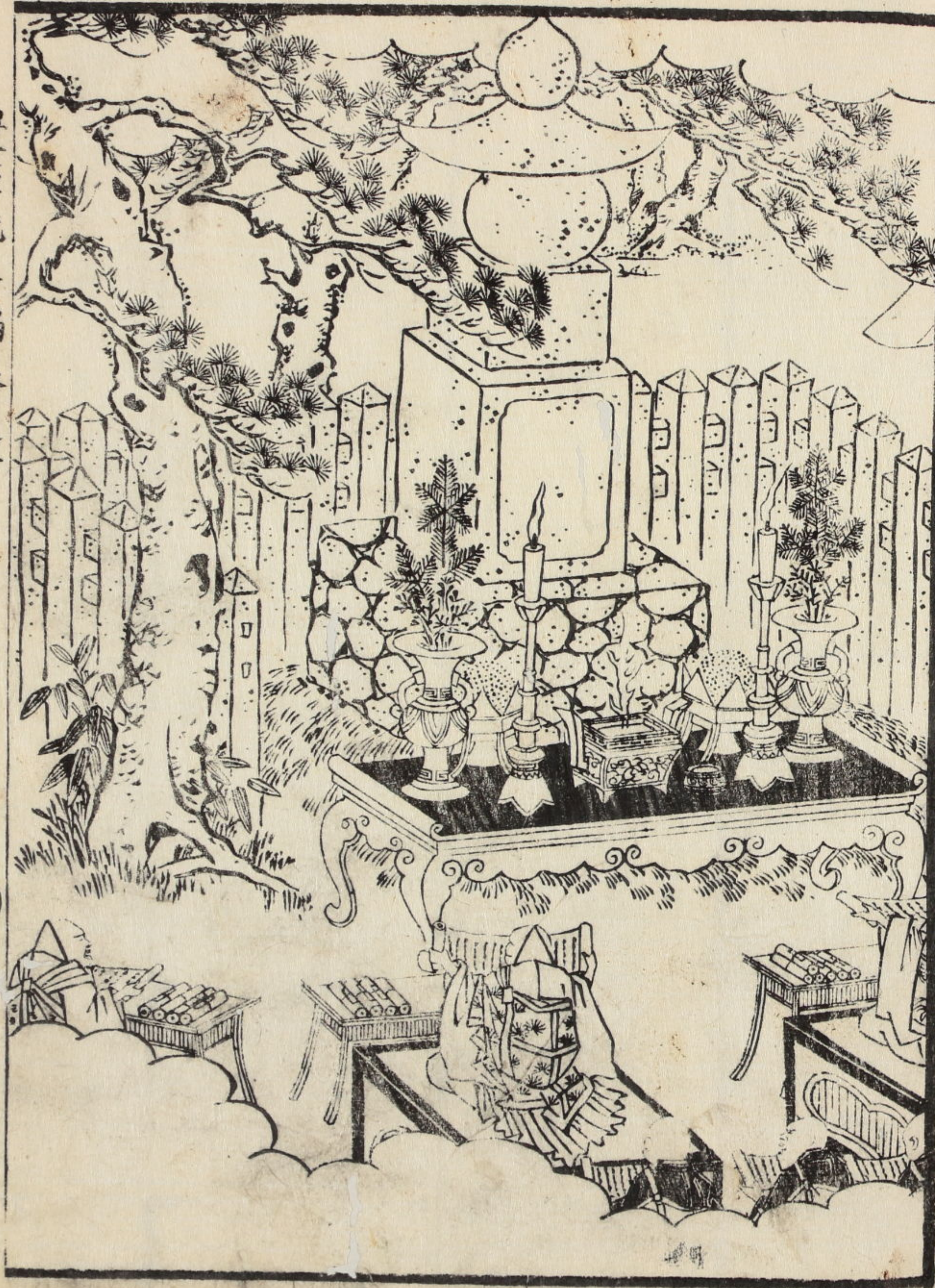
海城將隊退去... 諸も織田上総兵... 今川の大軍小攻提人... 敵提之首級を清洲小致... 吉織田殿小重とて... 分の勝利と申すの... 為擔らひ吊軍之企ぬらん... 魚一と言條...

痛めり。斯を断れ。小その御ありや。と問せ給ふと藤吉郎。這事極めて
 難儀小細とて防衛の暗術とあり。その御いんと是を渡す小義
 元朝臣の首級とりて禮を厚くし早く藤府へ饒に遣えし。又把る
 家のならひとて一連敵討まわらんとせし。針を打勝ひ。の最早こき連の續
 小作新首返。番らとよし氏直方へ命遣し。然して義元戦死せし。四座へ
 一座の塚を筑せ。大將を祀とて諸公士の屍を埋め。衆僧を遣へ。法念を
 催し。之室小供養したまひ。歎する軍の心小も。義有後。中り慈恵ある。拳
 止る。と感伏して恨を散らし。且ま。世運の難客まで。君が徳義を感
 稱さ。遠國までも披露せん。然とま。若し智と勇とを千里の外小所とる
 道理こそ。萬全の計策小やと。勅め奉りし。小岡信長。大小感。一。多ひ。藤吉
 郎が。栗とごとく。義元。物居が。敵と。りて。十重ある。筈小。あまを。收納。僧徒。十人。小

豊臣の基
 へ。油の。を
 下。或。す
 小。採。入。す
 由。事。と。り
 △。事。於。此。に
 此。様。と。い。ふ
 事。要。の。も
 一。部。り

早。生。提。安。る。同。明。の。林。路。孫。と。據。據。小。添。つ。張。列。府。中。小。勢。違。れ。ぬ。
 慈。一。て。之。后。法。洲。より。大。余。町。と。隔。て。一。里。南。次。賀。口。熱。田。道。小。大。る。塚。を
 築。れ。大。卒。都。波。を。造。主。一。大。法。念。を。修。り。の。干。勢。經。を。讀。誦。み。さ。し。む。備。又
 海。の。合。戦。罷。今。川。勢。の。捕。獲。し。皆。掛。池。野。新。暗。原。を。這。城。を。法。軍。會
 こと。く。戦。さ。怖。し。強。射。を。當。て。必。死。退。く。中。小。就。く。海。の。城。を。防。衛。す
 の。備。嚴。重。小。強。ふ。と。著。名。せ。む。とも。這。城。の。大。將。は。今。川。家。の。老。臣。小。て。
 岡。部。五。郎。兼。備。長。教。り。五。百。余。騎。小。く。籠。城。し。る。と。織。田。家。が。法。軍。士。多
 勢。少。く。隙。隙。み。さ。に。征。兵。と。長。教。益。と。防。戦。し。て。か。も。弱。く。氣。が
 小。信。長。こ。き。を。所。し。ら。ば。倍。し。て。征。兵。を。向。ん。と。指。揮。を。給。ふ。と。藤。吉
 郎。進。ま。出。て。言。狀。を。今。款。方。の。城。を。都。て。還。散。せ。し。つ。る。中。小。岡。部。一。個
 小。勢。を。厭。と。と。敵。と。よ。し。も。怖。し。や。ら。と。尋。常。小。軍。一。七。更。小。弱。體。を。頭。と

義元の墳墓を
築て織田家の
武名と鳴海境に
高立せしむ



ざる。大張勇士と謂つ。更と征振りや。六。渠ハ必死の運あり。自ら
 も多く戦損を。十分勝利とせ。後小僧は海一城を陥さん。こ
 軍卒も失せん。律志るべからむ。備まる。急小墜。海にん。君の威風も落
 ら。道理。目ハ今川義元朝臣の首級を。後府へ。仁信も。小空
 ありぬ。帝。萬。場。の。所。計。ら。ひ。松。便。小。こ。願。は。し。な。ま。と。推。之。忠。諫。ま。わ。ら。む
 也。諫のま。少く。用。ひ。玉。ひ。鳴。海。の。進。退。を。退。之。さ。ま。岡。部。が。方。へ。使。者。を。遣。之。
 遣。之。さ。ま。け。ら。や。う。の。義。元。將。軍。運。疎。く。戦。死。し。あ。ふ。て。の。後。ハ。諸。而。の。岩。の。衆
 將。連。之。を。退。之。せ。ら。む。と。い。ふ。も。是。下。の。唯。一。個。馬。矢。の。道。を。賢。く。守。り。籠。城。し
 至。ふ。誠。忠。義。勇。感。ず。る。小。備。刺。刺。あり。然。り。と。い。ふ。も。早。既。小。大。將。戦。死。し。た。ま。ふ。下。の
 誰。人。の。為。小。力。を。竭。し。城。を。守。り。玉。ふ。と。や。最。城。を。枕。小。討。死。し。あ。ふ。は。志。さ。む。べ
 け。ま。と。二。款。ハ。僻。事。小。ぞ。ん。下。ハ。氏。直。取。一。法。を。し。ま。ま。ま。是。を。補。佐。し。玉。い。ん。こ。

誠心とも。忠を。と。ま。さ。む。と。い。ふ。も。早。既。小。大。將。戦。死。し。た。ま。ふ。下。の
 遠。方。より。決。し。て。糧。糈。あ。ら。う。と。す。昨。今。一。箭。射。り。し。ハ。是。信。長。の。指。揮。を
 ら。む。性。士。率。の。指。揮。を。し。松。の。軍。小。使。を。う。ら。は。し。心。小。無。く。あ。ら。む。武。士。の。道
 あり。中。忠。義。を。し。て。誰。と。違。う。が。思。ひ。あり。歎。み。ま。は。こ。忠。義。の。為。小。命。を。惜。ま。ぬ
 侍。士。を。た。と。て。賞。賜。せ。さ。む。べ。た。備。て。堅。信。長。あ。ら。む。心。安。く。退。之。あ。ら。む。と。道
 理。を。考。へ。て。之。を。離。る。と。恥。ぢ。く。こ。こ。を。所。へ。信。長。の。仁。義。を。感。ず。今。法。条。を
 辱。し。我。義。元。の。恩。義。小。む。さ。す。忠。の。心。を。以。て。今。更。ま。で。此。城。を。守。り。は。ま。し。こ。も
 外。小。援。を。も。あ。ら。ま。さ。む。必。ず。あ。ら。む。城。を。た。ま。さ。小。義。を。違。信。せ。か。か。し。め。さ。し。退
 散。せ。よ。との。決。意。を。述。べ。も。有。さ。し。さ。ら。ば。清。小。知。小。從。者。ら。せ。速。小。退。を
 仕。ら。ん。が。あ。小。長。教。願。ひ。の。條。あり。大。將。義。元。の。遺。骸。を。我。小。こ。し。賜。ら。ぬ
 所。小。供奉。し。奉。ら。て。ん。忠。義。我。を。保。小。ら。し。め。んと。誠。を。り。つ。て。更。ま。小。ぞ。織。田。殿

添く忠義を感ず。最奇特の事ありて。即義元之遺骸と興へり。
 遠一條の擧ぐる。清洲城の織田信長遠道戦功あり。
 恩賜あり。中小能て。若田大十代比類され。戦功せし。
 悦び。又ひ小慶。次せらる。若田代の例。小任せ。
 させらる。魁隊頭。小き。結ぶ。こま。小園。
 孫。口。齋。院。院。を。事。斜。あら。む。
 之。形。こ。ま。秀。吉。の。恩。惠。あ。り。と。て。
 孫。謝。を。律。儀。ら。む。信。好。親。と。厚。ふ。と。け。り。
 慶。小。ま。こ。の。別。あ。る。六。浦。家。より。加。勢。せ。し。と。云。
 福。く。蜂。次。賀。堂。千。五。百。余。
 人。も。残。り。賜。さ。く。慶。長。と。祝。へ。謝。禮。さ。く。と。あ。る。
 ぶ。う。と。再。び。本。下。秀。吉。小。謝。
 禮。の。使。者。を。命。ぜ。ら。る。に。別。遣。さ。し。む。
 藤。吉。舟。ハ。彼。等。軍。一。戦。場。少。を。捕。
 した。甲。冑。を。着。せ。興。つ。く。後。蜂。次。賀。堂。
 父。子。小。對。し。て。禮。を。足。下。傳。り。と。信。
 長。公。小。任。し。ん。と。お。り。ひ。結。ぶ。今。昔。く。
 故。お。し。て。若。親。と。志。の。以。付。と。あ。る。
 小。子。領。て。若。

と。撫。摺。を。ご。死。方。便。あり。そ。胸。漸。く。遠。う。ら。む。
 我。右。と。う。せ。待。果。せ。て。大。功。と。
 達。さ。る。と。最。戀。小。能。し。く。小。ぞ。
 蜂。次。賀。堂。父。子。も。本。下。が。を。
 誠。心。と。殊。小。
 嬉。し。と。只。管。足。下。小。信。せ。申。
 宜。小。計。ら。ひ。ま。ひ。ね。と。底。を。も。
 なく。禮。儀。た。ら。し。
 伴。着。て。熱。田。小。至。り。
 家。より。船。よ。う。ち。系。入。伊。勢。の。
 海。面。船。渡。業。を。より。と。
 陸。を。一。筋。の。如。く。踏。次。と。儀。く。
 江。別。越。智。川。江。邊。を。小。
 忍。人。と。甲。冑。と。を。
 別。小。倣。し。蜂。演。賀。堂。後。小。
 任。別。遣。さ。し。む。本。下。秀。吉。
 一。個。小。て。親。言。寺。山。の。城。小。
 登。り。織。田。より。謝。禮。の。使。者。あり。
 と。城。主。一。案。内。と。通。せ。し。
 る。家。人。等。こ。ま。と。速。
 て。着。り。小。能。の。本。下。
 多。う。な。ま。い。と。せ。さ。し。例。と。
 缺。志。館。小。對。面。を。ま。せ。
 ら。る。に。最。下。軍。
 の。答。應。あり。て。う。ま。く。も。
 稱。慶。せ。し。織。田。信。長。
 こ。そ。連。小。忍。一。人。大。將。と。思。ひ。
 遣。ま。し。故。あ。る。と。し。
 後。言。舟。も。思。ひ。の。外。
 面。目。と。馳。し。て。
 尾。尾。別。小。と。ち。
 帰。り。ぬ。悠。し。後。の。信。
 長。と。新。波。の。家。人。と。
 侮。ら。で。鬼。神。の。像。
 く。お。も。ひ。色。織。田。

とも大切の本下が調由へとも信小信せらる。然らば遠路小軍を以て調練出精と
して朝夕と形くまじく練り武を講よとぞまゝ多ひなる

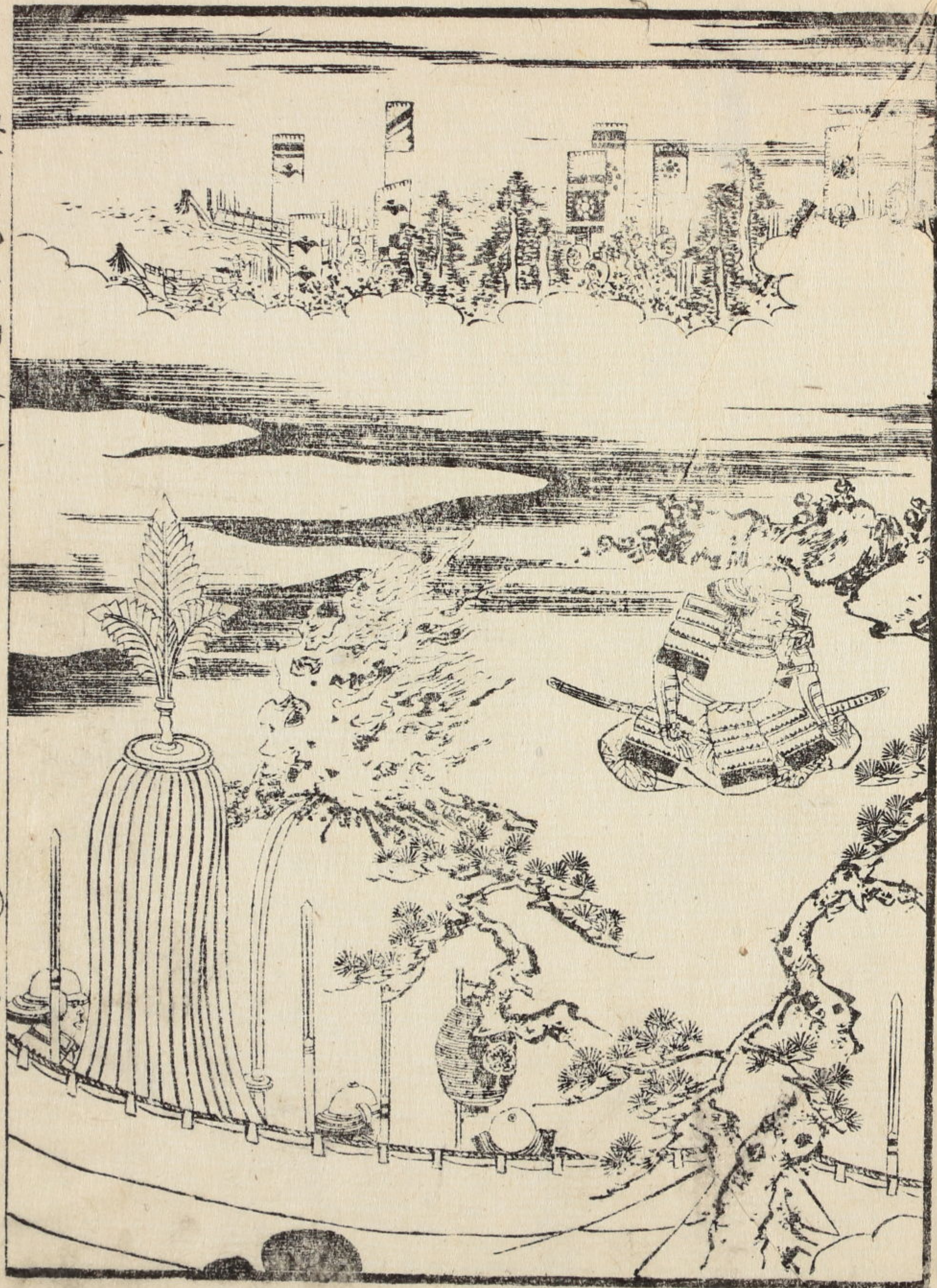
信長は濃征秀吉に起發爲謀所自軍

智ある敵は六後くと仗勇ある敵は六速小段といは軍法の奥儀あり秀
吉こそまじく宗といはまじくその進退小随ふ。主君を諫め來らまじく
より烈々大將を以て用ゆる氣色を以て機重りら。大濃へ滞在し備士増死
あはまじく。秋篠路部大捕義龍當月十日病死せりと書る小信長大
小憐まはつ憾や平收より。逢子義龍の首を殿へ。道之の仇を報ひんと来
東條起りし小足孫吉部を制止依延しつこその後悔なき。平道之の意
魂小信と面を朝づらんと。大少驛んで西小の方小向ひて是を報ひ怒自り。今さ
ら事と起を傳。跡の多りとつゝあはまじく。と書る小信。大濃へ進せ。

義龍が居城とて。濃へ。と書る。成る恨を散せん。迷小出馬の準備。大
せよと。夜間く。約さる。玉ふと。本下秀吉。劇憐き出はる。引ハ开も。東西小
程をせ玉ふ。大濃へ。所出馬あそま。この禰へ。言出はせ。かく。君小。素。え。天
下を正し。民を安樂さ。む。大事を。懐起さ。ら。匹夫。匹婦の。讐。を。伺。候
ふ。如。此。奉。止。ん。を。山。笑。道。之。入。道。の。復。讐。せ。ま。玉。ん。所。事。迄。も。も。理。小。恨
を。ぞ。継。令。バ。實。は。父母の。所。仇。ら。も。時。節。を。得。く。十分の。勝利。あ。る。事。と
ある。小。所。岳。笑。の。仇。や。大。切。の。所。身。小。禍。あ。ら。は。せ。さ。る。了。父母。小。不。孝。罪
罪。を。得。る。ふ。の。ま。せ。小。不。覺。の。名。を。流。さん。大。濃。今。義。龍。軍。を。して。
龍。與。孫。弱。の。大。將。を。ま。得。時。あり。と。懐。ま。ら。ん。義。龍。が。を。せ。り。却。て
段。こ。と。成。さ。る。べ。し。不。認。い。ん。と。こ。ま。推。小。素。孫。家。小。智。勇。の。臣。家
最。多。く。孤。獨。の。龍。與。を。よく。守。護。し。て。補。佐。の。力。を。竭。く。は。義。龍。を。用。ひ。ぬ

義龍より國城を以て望まざる。新要法を以てする所へ疎忽小洲出馬僅々勝
 たず不待覺來未之。倘勝利を得ざるにせざれば是れ是れ功勞も後事と
 成ぬべし。龍貞未若來るまは。臣家の心小隨ふにけり。強東かと飯るものな
 ら。老臣諸士の教訓を誦む。君臣自然と隔心して。定んて内實を生かす。
 其時來らる智略を遠くし。然して彼を伐する小勝利を得るといふ難き。
 遠理を能く漸賢意ありて。而今漸出馬に用あり。と頻り小止申しけり。
 とも信長更小諫を用ひざり。怒るまふより。秀吉今ハ推込して。再諫
 するに徹さく。如何せんを我獨子更と傲して申さる。諸織田殿ハ五月十
 二日の曉小二千余騎を率隨へ西兵渡さして。岩向を然りとに。秋原家小
 を長井甲斐守日根野中野と首將として。森部守屋重豪を出入織田の
 小勢と併て。隊伍も建て合戦せしむ。右横た横小ら駈きて。長井日根

野の支將も同く不戦死せり。織田殿大小悦び至り。遠機小業として
 攻進る。唯一棟小居城する。稲葉山と標置さん。公軍勇めと指揮し
 玉ふと。柴田權六佐久間右衛門倫二口同喜小詞を並へ。遠色深田小勢
 きたまは。進退不自由なる由。小自國の案内よく知る。長井日根野
 とら打輪より。敵をめて。進るとは。自軍も深く進み。必難き事。あ
 る。敵小一敗北はける。と遠運の功となり。至り。河阪陣有て。然る。との
 上る小信長も。敵敵之百余ある。着て。怒を。遂小清洲へ
 凱陣あり。諸本中せ。唱出。予二千餘小勢をのりて。六千余の敵を破。出
 首。之百餘練の。なら。長井日根野の大將を最易く。殺得。り。さ。言
 系小中を諫め。敵小智勇の者多く。と思。せ。の。底事。を。最。既。其
 濃武者の。修練。の。識。り。何。量。の。事。も。又。々。近。日。出。馬。して。遠。次。の。心。を



美濃を伐の
軍を發す

信長
岐山

河原
隊伍を
整え



稲葉山と徽塵小をて年来の恨とせし見とて死小と愕我小宣（バ羅吉
 弟ハ恭しく捷軍と祝し終り然して初と草小重さく遠遭の軍小備（ある
 も全く不情の僥倖をまじり方望遠機とるにたまを再び大濃（新
 向ハ暫く思召止し惟ハ長井甲斐也日根野下野もさどハ執る小足さる
 大濃武士ありうさめて出軍遊さる多勢とりて出逢ハ如何なる奇計の防や
 あらん歎遠事頼ハ思縁得た小右残軍と誠合王（と駭通事と練是
 更小用ゆる氣色移く一向出馬ハ準備小て既小九月下漸ありしが六千余騎と
 列隊し波胆川とうち流し大濃の國ハ礼入せらる遠次本下藤吉商を
 残ささ定ありしと思ふ子細あるとりて頼り小供と願ふ小よりとぶくはぐら
 二具一とふ秀吉頼く遠次ハ自軍必定敗軍あらんと思ひ決し事な
 る由（其と深もん方術と構ハ先隊小と進もる者も濃列稲葉山ハ秋

孫龍興諸將と哀め軍法疎淡しけるや尾別織田勢先達と戦捷しと
 功とて必再び進来らん小右の善機（の城主竹中守長衛重治の子を元
 頼軍師とんと使せりて指さむと小信と半信重治（一義小及を
 小信小信と歎進来らハ防ぐ死方術ハ新々如くと配位と定めて待取小
 信長を執る千余騎ハと流して濃列さる新加納早治色をて進まれ
 ころ竹中守長衛重治（の信長と所と歎く）日根野備中守小五右
 余騎と属て新加納の小小信伏させ同勇彌次右衛門と五百余騎小てその
 西の守小伏させ重治頼く指探しと謂や備中守ハ塞一門地小信長の旗を
 掲裏ハ大將と當的て戦さし又彌次右衛門ハ織田方の先陣と露本との
 中間と斃截ハ歎の逆小救さぬ其要法と做させらる備中守ハ村中
 之助野本次右衛門のあんとて六千余騎小て絶對ハを時戦ハ合戦ハ

烈しく。いふ小末下功小突。我意を欲し。素小目熟ぬ。旗を用ひ再び
 の小小背く。言於道。道と謂ひ。鶴懐り。と白り。玉。の者。吉。并。とに
 も。臆。せ。と。静。小。答。へ。て。東。と。や。是。ま。再。こ。意。を。犯。し。出。馬。の。事。を
 謀。め。突。せ。と。若。所。用。な。け。ま。と。と。是。を。知。り。助。部。を。ま。ら。ぬ。の
 忠。義。小。あ。ら。と。小。臣。敵。の。曉。漢。と。探。る。小。果。し。て。奇。計。を。設。け。一。陣。既。小。戦。て
 作。一。バ。遠。道。法。合。戦。の。句。々。所。勝。利。お。ひ。も。縁。ら。と。所。難。戦。る。陣。を。察
 し。突。せ。と。場。小。隊。ん。く。用。ひ。と。作。設。し。標。小。て。旗。當。目。の。作。ら。と。は。先
 刻。所。外。と。是。り。て。步。權。ら。と。後。が。ら。作。建。る。と。立。色。に。標。小。必。用。の。事。に。故
 推。て。若。び。作。を。作。木。綿。或。の。紙。を。用。ひ。と。延。と。必。く。標。と。を。一。陣。今。日。一。幕。の
 不。用。の。と。金。く。若。と。侮。り。突。せ。と。氣。隨。の。所。為。と。を。少。の。あ。ら。と。東。小。も。西。小
 も。若。は。所。意。小。從。ひ。と。命。と。顧。る。も。中。心。信。と。と。所。意。小。違。ひ。作。て。も。若。は

所。為。才。と。存。さ。る。も。忠。義。小。は。只。所。軍。に。輸。さ。る。や。う。小。工。又。は。は。て。考。付。と。る。越
 る。ま。は。柱。と。所。免。と。是。り。と。尚。ま。小。臣。工。又。せ。一。陣。を。功。と。ま。る。く。作。と。
 如。何。の。軍。令。も。は。ま。ん。方。僅。と。之。時。計。が。任。延。の。標。と。合。置。ま。敷。と。
 づ。ま。や。う。只。意。小。怖。ひ。と。思。入。と。重。を。小。より。織。田。殿。懸。ら。と。と。ひ
 ん。が。ら。も。是。後。渠。が。奇。計。お。ら。ん。と。願。小。信。せ。と。救。さ。ま。と。り。秀。吉。大。小。安。途
 る。一。忽。隊。位。と。置。懸。と。旗。本。近。く。拍。せ。と。り。然。と。小。之。陣。を。柴。田。使。入
 間。の。支。大。將。二。小。余。隊。小。て。正。魁。小。進。め。と。森。池。田。の。二。當。小。も。全。く。二。千。を
 長。蛇。小。備。へ。率。進。り。せ。と。推。進。す。と。一。離。ま。と。大。將。信。長。旗。を。撰。採。と。
 二。千。有。余。隊。隊。位。隙。隙。形。く。ら。も。棄。と。と。陣。を。小。新。加。納。の。敵。に。陣。營
 小。幾。ま。け。ま。と。秋。森。秀。吉。の。魁。隊。の。大。將。板。村。半。之。助。野。本。治。右。衛。門。二。千。余
 騎。と。二。隊。小。と。け。備。と。並。て。勒。と。り。織。田。勢。の。進。と。着。て。魁。首。備。と。標



豊後守 藤吉郎

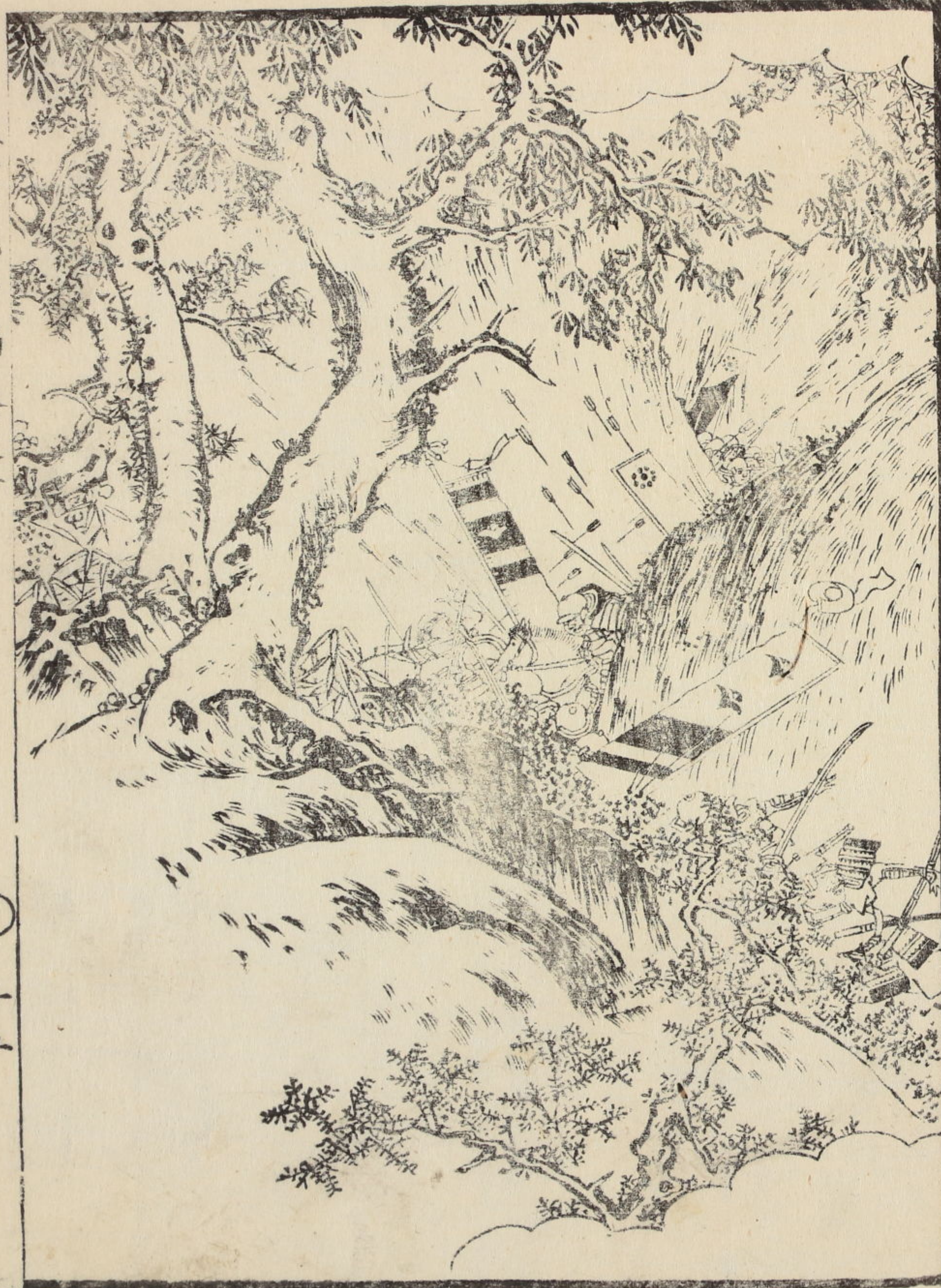


信長怒く
藤吉郎が
五色の旗を
禁め
む

豊後守 藤吉郎

敵一を流してし放散。追柵さん威勢を傲き柴田佐久間も秩率小指
 揮る。多流二之波放川やいな指其の面を遣推把敵陣當的を塞一
 門地小面も振らむ沖菟る。系孫方も方りと全く進んで槍を合せ
 七給途と防戦ひ。津守を散りて操合より慈ども炎濃勢大軍をま
 尾張勢の二千余騎せ。心小に單。刺さる敵人と逃け柴田佐久
 間ハ小勢なきども何きも所を猛勇なり。二をこ小吹柵さんと望
 とりく操となく集散用合鋒の徹らんまを小戦ふ。牧村野木の支
 將ハ頑て竹中重治が謀を領し。時分なりと拒抗さる。小意百次
 小頼起右願方例小教乳を柴田佐久間の得たりや得たりと猶小意を遣
 菟けまが。孫方起脚なく加納村まで逃散り。織田勢いやく指ひ
 強く魚叫んで逐獲とる。本加納の御中より。竹中半兵衛重治二千余騎

小て顕出始。此小處へ。柴田播六佐久間右進。牧村野木三千余
 騎より攻潰し。勢逐起り。勢なき竹中半兵衛。孫方層とも
 思ふ。こを。一戦小流。能與の本陣小。吹柵らんと猛虎の像く激
 叫る。遂小竹中が千余騎を。吹柵と一。小一時小。明と
 ち提り。柴田播六正魁小進んで。敵の逃る。流さ小流
 おと逐行て。林の中を。是れと。小頼起。視放ま。敵ら何地へ
 逃る。けん百歩計も隔てし。固小龍與の旗馬標。風小靡きて。翻籠り。柴田
 視る。より武者揮。彼の。當的敵陣。を。前や。菟と。馬小拍。小進め
 既途。目地。小。弾。後。雲。像。敵。の。敵
 不。斬。其。鯨。小。と。推。捕。用。の。牧。村。野。木。の。二。千。余。騎。竹。中。が
 隊。也。と。一。纏。小。あり。四。千。有。余。騎。正。圍。小。圍。を。ほ。り。て。攻。菟。り。得。の。柴。田



豊臣記二續卷之十一

十五

竹中重治が奇謀
 此ふ熟く柴田
 佐久間の軍勢を
 單撃いよ

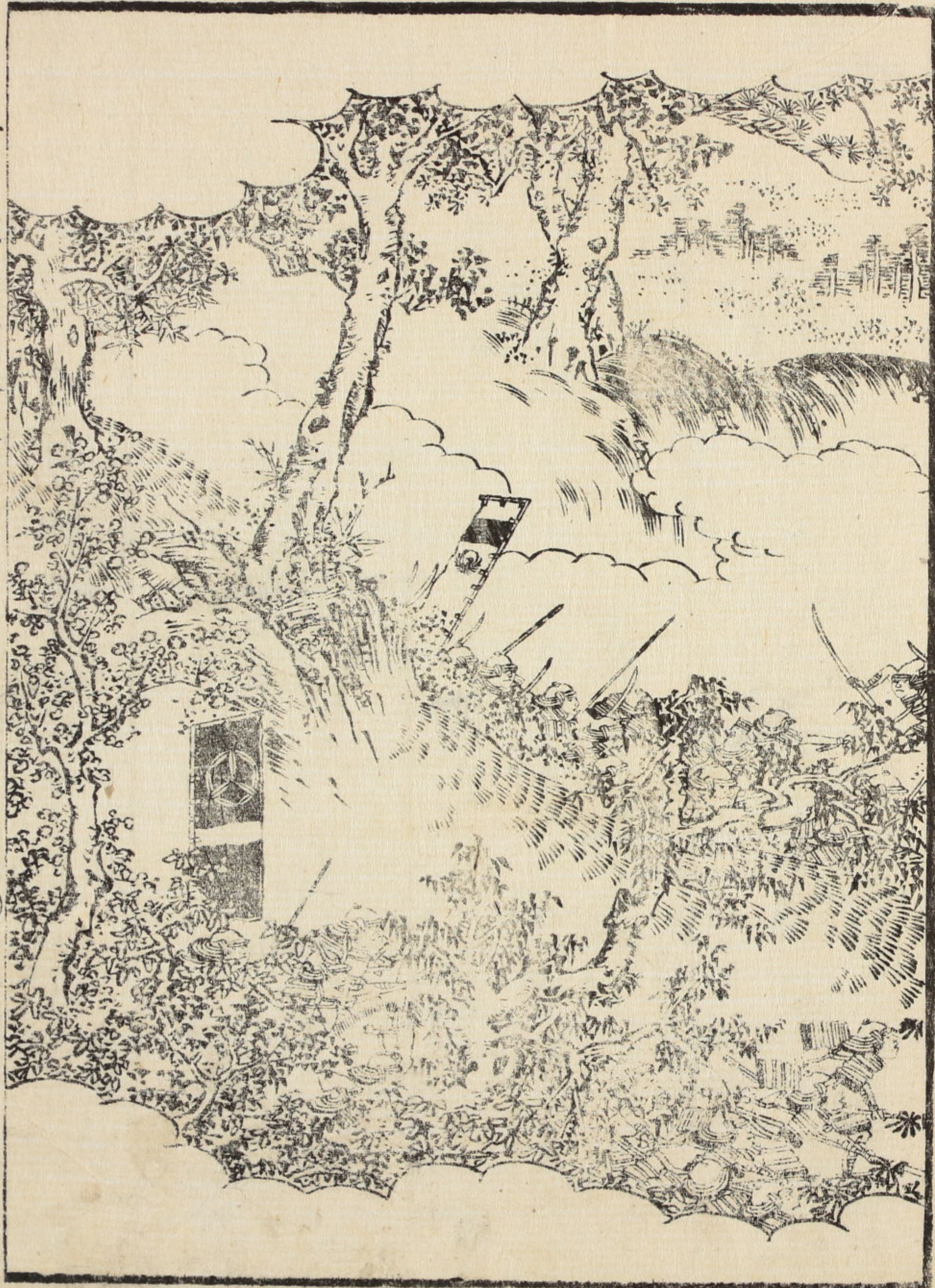
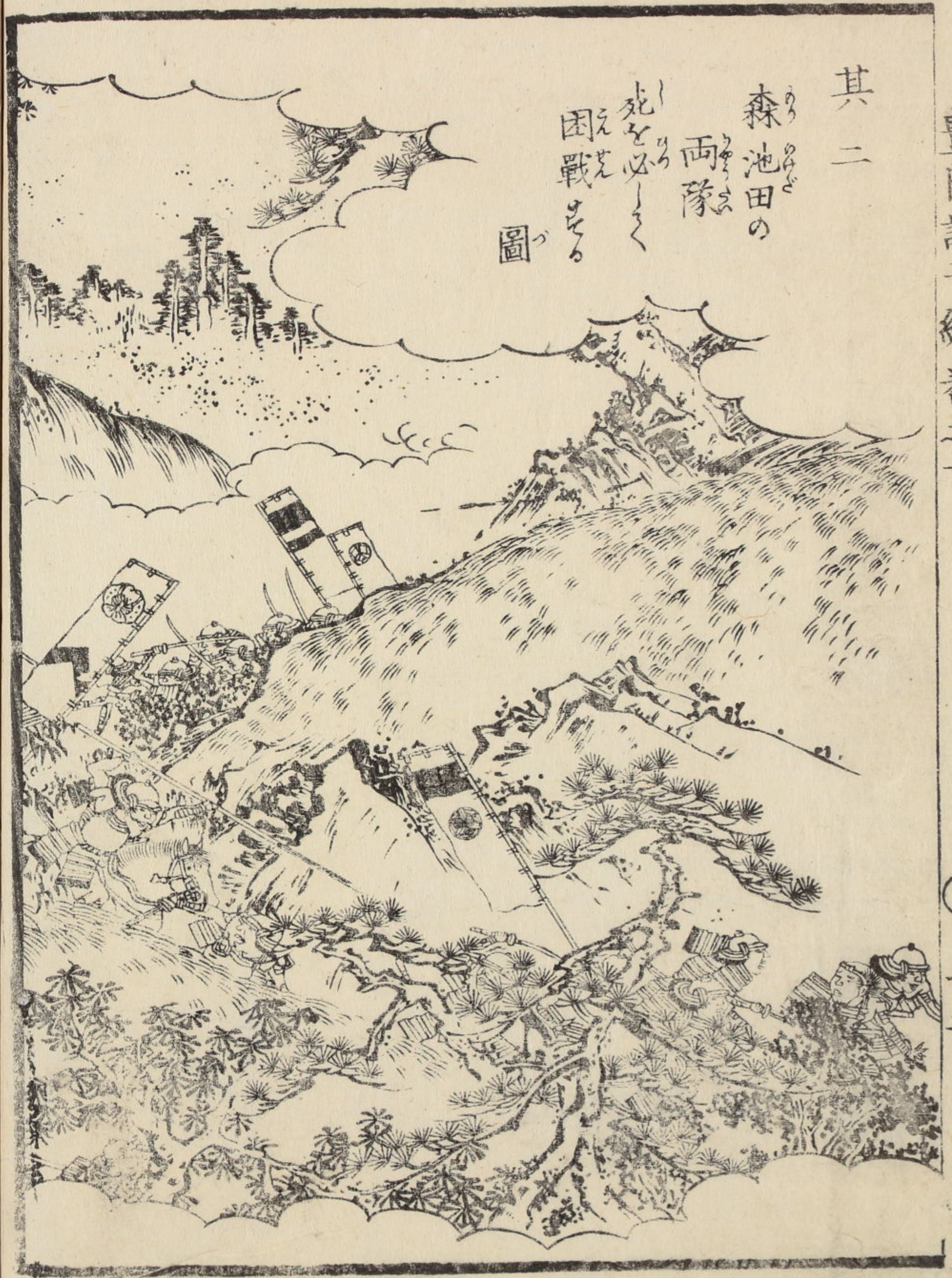


豊臣記二續卷之十一

十六

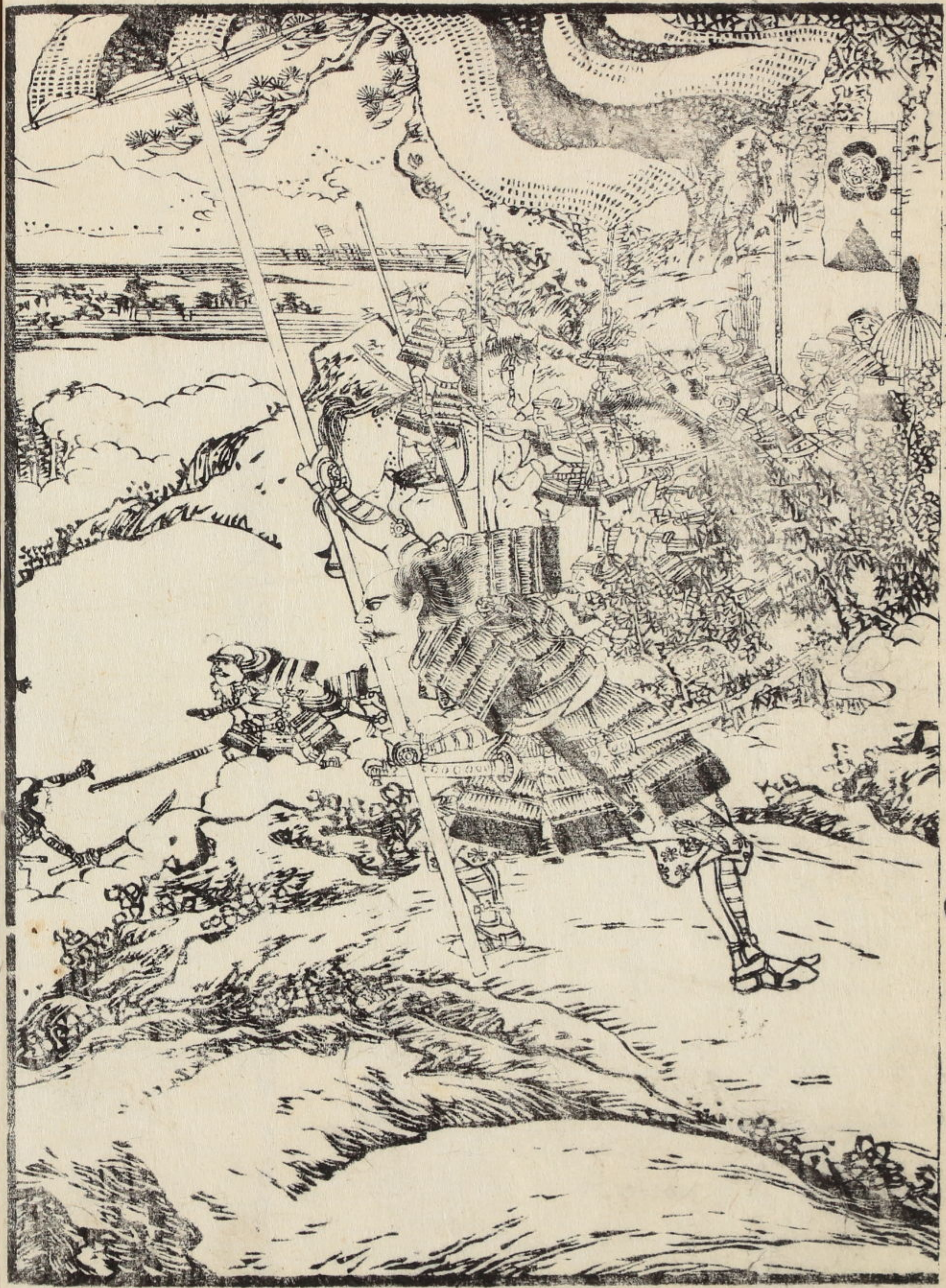
其二

森池田の
両隊
死を必し
困戦
圖





秀吉の妙計
 浅野弥兵衛を
 起して
 揮く奇兵を
 起し



先陣より加納村の山際小引陣まき。二陣の中途小引別り。又大將の旗を
 備中守小捷起ら。之の陣の陣別く小戦悩む。信長起て愕然と
 着て覺ゆる心地。さるひ孫吉原が諜ゆ。此途みんめりと懐さるま。今
 さら構方もみく。必死小引く。素阿ふ時境。木下孫吉原。願ひを言号と
 呼ぶ。小引は。法野彌三浦長政が。勃然として走り出。堆は岡小致勝。作
 務け。逸れ難と。言く捧く揮。匣せば。引の开も。突如思ひも。縁らぬ瑞龍寺
 山は。峯連小五色の。籠籠。松百匹。松は嵐小吹。靡を。腰隊の軍勢。敵百あ。
 兼。盡せぬ。尾張武者が。稲葉山の。楠園へ。馳向ふ。如く小音。つくりの。まき。ま
 小も。勇ま。素者。方。法。諸軍。勢。ま。ま。と。視。る。う。慌。忙。き。如。相。の。如。小。と。霜。間
 る。あ。らせ。ぞ。背。崩。と。散。れ。ま。日。根。野。只。身。信。と。あ。也。と。刺。し。止。ま。と。岡。が。あ。そ。
 隊。仕。跡。漏。小。あ。り。る。由。備。中。守。も。孫。次。右。衛。門。も。落。行。勢。小。誘。ま。と。心。を。あ。ら。せ。も。

邊より。尋常の軍あり。バ。本。林。の。左。右。の。遠。途。小。引。退。伏。ま。ま。は。揚。と。み。ま。こ
 ども。唯。謀。本。は。氣。悩。さ。小。邊。由。敵。と。入。道。と。大。將。と。一。隊。小。成。る。信。長
 遠。陣。小。引。と。ら。ん。と。馬。は。く。信。を。繰。替。へ。ま。木。下。秀。吉。声。烈。く。此。時。を。と
 君。の。勇。氣。を。揮。を。戦。ひ。至。ふ。と。こ。後。み。ま。と。響。把。て。勃。々。ま。わ。り。す。心。附。り
 と。宣。ひ。が。二。千。余。騎。と。一。隊。小。引。掃。ま。と。退。却。さ。る。ハ。柴。田。佐。久。河。池。田
 の。こ。將。こ。ま。小。引。く。臂。力。を。得。軍。を。整。め。て。退。返。し。姑。く。息。を。吸。吐。さ。す
 け。る。織。田。敵。陣。小。引。整。り。さ。る。ひ。遠。途。を。最。一。致。烈。く。進。ん。で。つ。る。や。こ。勇
 も。十。分。積。ま。さ。る。合。戦。の。死。响。あ。ら。む。と。諜。る。初。小。引。と。至。ひ。速。小。引。を。纏
 先。は。相。川。を。東。へ。渡。し。摠。旗。尾。川。の。岸。小。厲。る。速。走。と。ま。り。る。以。案。小。遠
 ち。む。竹。中。儀。引。進。し。来。ま。と。も。織。田。勢。を。亦。戦。これ。が。素。孫。吉。原。も。力。を。く

己が群々退散しけり

本下秀吉新許五色當標属澁川素性

榊權固小小さききども然く千介を雁し。舟繁長一と少も。終り水小
没たとい遠道受浪の合戦あり。本下一個の勢をりつて徳計果せし由小行
中が長兄將ホもききども軟捕て取軍を死地小陥させ退陣させしハ鬼神
既ハぬ勢謀あり。然れど小織田信長清洲城小所降陣あり。早速本下を
咄出さき再之謝して宣ふあり。予も方許諫を用以て他國へ出馬し駿率也
換下たり得返さくも後悔あり。然れど不が奇計を施し。之軍都て恙ふ不攻陣
せし得殆不審如何なるか御ありし小やと亂るハ謹む然れ非我君出馬の所
能ありて一途小懈らさむ不攻小第一敵の奇計小陥り若戦しなむ事りやと密
小指居せ近江路へつらじ事照藤川拾原 以上ハ板依久魚市原日野を尻痛せ

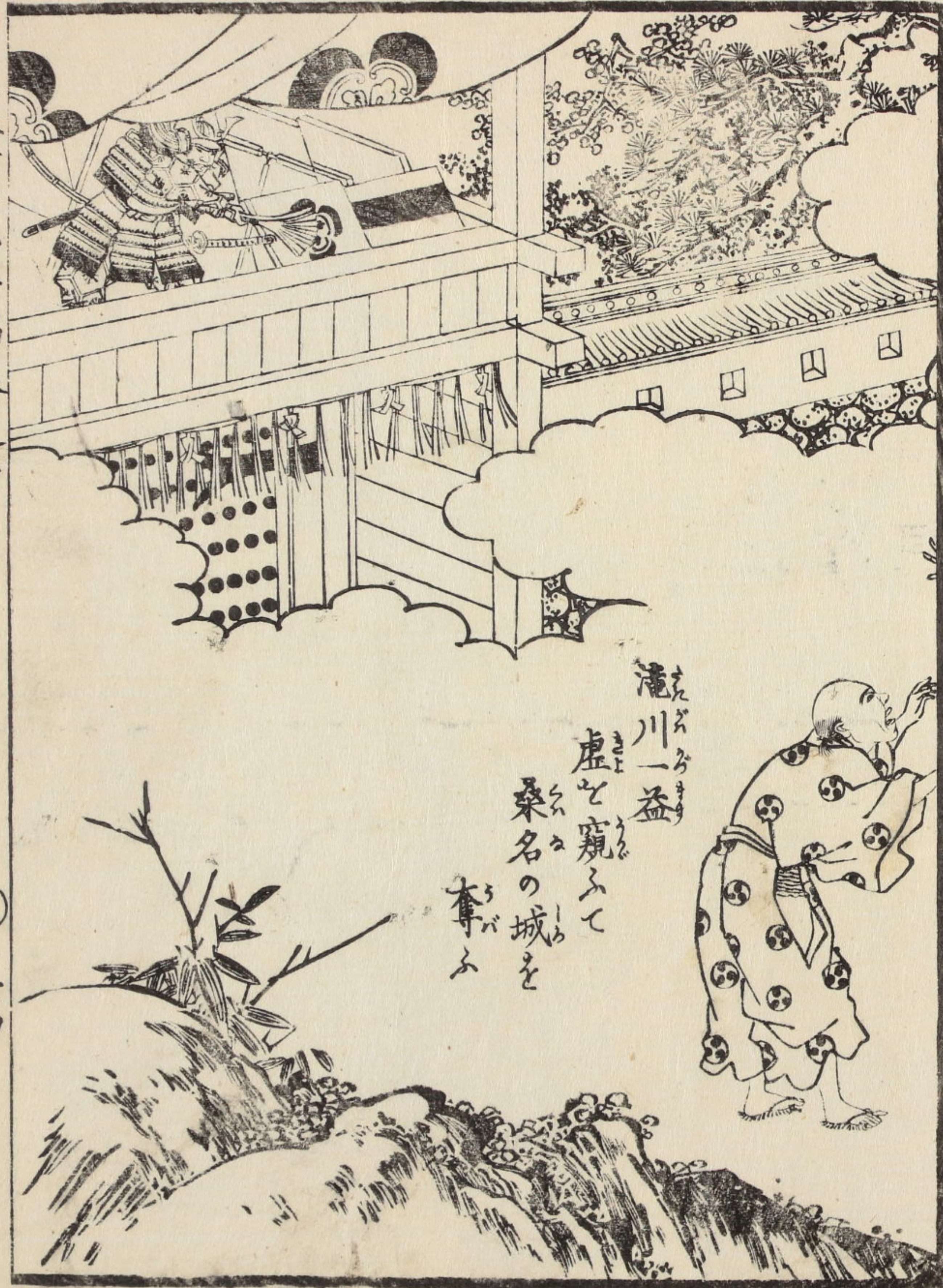
之上。守山北依久魚市原の家にし小指居したる勇士軍を誘出し謀を謀
合せ。暗号せ定めし潜伏自軍義小及ん時ハ何時少もあき五色は隠れ
こく隠れし内籠さん小夫と着もせ公述小瑞龍寺山の峯傳路を掃き山へ
押進し徳小入せよと約束しに果て遠道受浪の森し竹中守義謀計
器小より所詮本下を獲獲せしと心憎く存せしハ何の幾は標を暗号せり
して假番ハ士隊義約小背うせり。峯々小軍標を樹身を設けし由也。
敵輩おく是を怪しむ。本城小裏あらハうなまじりのと一強ハ初れ退ひてあり。
又か為小作らた。五色の氣標小ひひし。所懸小觸まある。好合て小作ら
然るる暗ハ約束の暗号小違ひ作ら。推て是の氣標を作し。所意小違ひし
恐入て候あり。と東上るに信長も堂拍て感佩せらる。智謀の子方小これ
しうらぬ侍家ら。御懐懸はれも邪く。方御を智く新をうり予先を海へ

の山中小田原をせしむ。凡小信長の父勇多利を所信と君小佐は(る)は遠征を
 小宣しあらんと猶も賢忠を伺ひたまふ。會々織田家の古老より不破河内
 中の筋消息親しく入り語りひたり。動もたまは信長小佐官の傳と勅を
 ども猶待邊しくはしむらんと不破遠征せし柴田小諸も小柴田も被召る信
 長小佐官に對面し。その心と寢ふとて後城小尋常あらざれば頼小佐官に勅め
 けり。其の懇切の稍沈みて織田の部小遊軍たりしむ。信長杖持せんと有
 り。時一巻ふきを語りて寸功もなれ。馳せりて福と奉る。本意あらじ。是の
 返とて釋し。くも信長もましく嘆稱し。隨分懇切小款待し。たるが桶狭の軍
 は後愈々信長の器量と感し。良將ありと思決し。去永祿三年の冬
 正し。信長小佐官にけり。未名に頼小佐官の境より。勅もたまは款候好
 きて。是をす。をむら。ハ。未名に。款候。不。信。を。伊。勢。の。國。司。小。高。の。雁。持。と。

あり。尾羽の國門小摺んと款を遠征河津あり。死小やと重し。は。所。信。と。
 織田殿殊小悦喜した。ひ。事。令。成。就。せ。る。事。集。傳。の。事。ら。る。事。を。
 小令。那。量。計。員。首。を。率。ひ。移。り。小。や。百。を。入。も。伴。小。及。じ。款。の。人。殺。せ。致。殺。
 て。款。は。城。地。を。奪。取。自。勢。の。所。領。小。を。ま。く。款。と。頼。小。佐。官。を。計。置。せ。り。君。の。所。領。を。
 奪。り。小。田。原。を。入。籠。城。首。尾。ま。く。計。果。を。ま。く。小。と。頼。小。佐。官。に。款。の。事。を。お。し。信。長。
 心中。老。を。ま。く。ら。も。を。信。長。小。佐。官。に。ま。く。一。番。又。小。悦。起。同。年。十。月。の。庚。辰。を。令。
 士。様。小。様。松。を。宴。し。勢。列。長。信。小。越。き。ぬ。茲。小。長。信。の。城。を。預。け。
 左。衛。門。右。衛。門。と。い。ふ。人。あり。龍。川。一。番。と。同。年。小。佐。官。は。當。は。美。濃。河。内。小。諸。
 へ。美。濃。城。小。諸。ふ。り。左。衛。門。も。美。濃。より。一。番。が。智。勇。あり。と。當。は。美。濃。河。内。小。諸。
 信。長。を。ま。く。款。請。し。遍。小。別。後。の。安。危。を。彈。免。致。し。左。衛。門。小。同。年。
 是。下。先。年。甲。賀。を。釋。し。を。後。當。と。不。仕。と。知。り。す。今。ハ。信。小。佐。官。と。

然ハ近江に出てより。今日まで東國を武者修行し。離細きり。是より猶
 も中國西國折のるをん。僅に書きまわす。存せざるあり。と敵し。やうし流言を
 種く。友宮。流川。智。曹。と。情。ん。て。此。地。小。苗。め。己。が。幫。助。小。さ。ん。と。思。は。し。ま。す。
 相。面。顔。小。苗。後。も。一。巻。も。や。り。も。是。と。悟。り。幕。を。初。ん。て。草。小。謂。ひ。う。小。子。生。得。弱
 き。と。幫。助。法。死。を。物。く。取。念。ふ。く。本。國。道。を。巡。視。せ。し。小。今。東。海。小。國。別。く。士
 勇。り。の。織。田。家。小。知。る。と。家。傳。を。考。へ。若。し。補。佐。脱。小。今。川。大。軍。を。助。け。義
 元。を。討。捕。て。懸。賞。死。懸。籠。の。像。し。其。小。能。く。守。備。義。小。大。軍。の。浦。出。る。が。是
 中。と。我。の。世。文。の。淺。ら。ざる。好。ま。あ。ま。六。得。く。來。て。こ。ま。に。と。な。る。肝。小。一
 織。滿。を。眉。を。瞋。て。形。い。ふ。平。の。詞。を。所。り。の。み。美。如。る。事。の。起。り。や。と。同
 小。一。巻。信。を。吞。込。不。釋。の。尾。列。の。織。田。信。長。を。日。大。軍。を。率。領。一。地。列。の。地
 小。代。ん。と。ま。す。の。幕。首。の。長。鴻。と。改。陣。さ。ん。と。録。定。形。り。是。下。織。田。城。を。防

づ。れ。兼。備。あり。や。と。問。は。し。て。左。京。愕。然。と。と。色。を。失。ひ。我。も。素。より。信。長。の。強。化
 と。深。く。患。い。か。今。推。進。さ。る。如。小。せん。是。下。防。計。あ。る。あ。ら。ば。救。へ。と。怖。ら。る
 る。又。一。巻。心。中。小。ら。も。替。び。諸。も。我。欲。所。小。臨。り。と。猶。も。詞。を。巧。せ。り。織。田
 の。進。軍。を。拒。抗。が。ん。緯。た。の。謀。小。難。ら。む。我。願。て。所。尾。列。の。地。蟹。江。ハ。今。く
 伊。坂。小。属。し。て。遠。長。鴻。の。有。小。あ。ら。む。也。然。と。れ。が。彼。知。小。城。を。築。ひ。軍。士。を。籠。り
 ち。ら。し。め。織。田。長。鴻。と。征。ら。る。ら。ば。蟹。江。江。津。津。上。り。援。軍。を。出。さ。せ。諸。將。を。蟹。江。に
 攻。め。形。ら。長。島。城。上。り。彼。下。を。助。け。進。退。小。お。救。ふ。長。蛇。の。威。を。張。る。の。う。小。も
 蟹。江。の。城。を。安。息。と。と。を。近。村。を。從。へ。る。月。越。來。ま。さ。ら。う。ら。小。尾。津。の。地
 とも。固。守。し。果。せ。信。長。を。殺。ん。と。願。ひ。小。あ。ら。む。目。ま。し。蟹。江。の。城。を。築。ひ。小。思。ひ。強
 一。計。あり。是。下。從。來。石。山。の。本。願。寺。上。人。と。も。信。厚。し。然。る。に。本。願。寺。の。住。持
 と。法。助。と。も。を。言。罵。忌。憎。ら。る。る。を。登。り。石。山。の。上。人。を。罵。り。金。浪。を。揮。ひ



滝川一益

虚を窺ふて

桑名の城を

奪ふ

徳川一益

廿四



徳川一益

廿五

信清たまた果して遠傳成乾とす。等用小日と送りあが極と違ふ事あり。
 遊小起業とる。と勅をまがた系宛成の歎び或は慌まが石山へ使者と達事
 鮮小器遣し。只頼小憑とけまが一益が先見小望も遠もど令保を糧か於
 寺より贈遣し。昂時小結構せよとの詞を澁川一益と奉りし。と等請と
 急がせらる小より。同十二月の下澁川一益と築出せり。一益た系一惠遣
 し。防濟の全備と見られ。運兵五百騎を糧武具鳥銃をも残照く。
 澁川一益と頼小鮮の城へ運納當分一益面く防戦の準備ありし。と
 た系が頼も心の如く鮮の城と押領しけり。

澁川一益頼小鮮の城を築出せり。属鮮の防戦

又文信と信とる小ハ先と成丈と密小職とす。然バ澁川一益ハ腹部左系と
 軟果せ。濃くと鮮の城と築出。密使とひく織田殿ハ云。此ハ信長ハ

小感悦せらる。播群の功勞ありと。感帖を下賜し。鮮の城とる。つれ
 より。是中からむ小運兵と百人と遣し。是も頼も保く。素名と百濟ハ別
 その地。城とる。と頼小鮮とる。一益頼小頼勇と。次小をたの野
 武士とを操らむ。防濟の方術と訓練し。い。斯る。秋は。大軍をも防戦を見
 あり。同四年正月の初。素名の城を伊勢之齊氏吉。素名始の實儀と東
 さんとて。團司北富の居城と。大河内小頼とる。頼小澁川一益と。素名城
 と。情子鮮の城へ。是。帰。り。如。く。の。事。小。鮮。素。名。の。城。中。實。儀。の。よ。し。と。言。ふ。小。一
 益。と。所。在。確。り。と。秋。起。响。こ。そ。東。ま。り。と。東。來。致。ら。る。素。名。へ。推。進。と。も。う。小。城
 と。素。名。ら。ん。と。糧。糧。糧。百。余。人。と。軍。徒。一。時。ま。り。年。を。過。ぎ。り。以。素。名。城。へ。推。進。と。單
 騎。急。小。攻。め。ら。る。中。不。意。に。事。起。り。慌。忙。に。拒。抗。つ。た。方。便。も。な。し。と。調。査
 すると。一益。烈。しく。指。揮。せ。り。搦。發。槍。と。云。斬。く。若。も。な。し。城。と。築。出。せ。り。見

豊田記二編卷之一

十四

丸小乳指。伊勢之舟を妻子と生提一圓なる藤小こえを番長とつめて
 能常えらるる。一門を籠りて。鳴を法めて牢珠せり。伊勢之舟の勢
 とも知らるる。一應を過ぐると。翌日大河内より歸り来り。藤小入らんとす。其時
 遠方の方の射窓より。弓を挽ぎて。放箭し。面を朝つたやうも。是れ如何かと
 果果稍惘然とす。一登射樓小頭出。大言言小。與るやうと。伊氏吉錦
 小所我を射すの言を。随へて。天下漫射の勇士ある。別々遠く小。是れ如何かと
 体らんと。是れ如何と。數千の言を。伊氏吉錦。故小當城を。棄而我を居城と
 成らる。此れ如何と。心得よ。汝も。前後の事。中。傳の邦。あり。其奔走せし。と。城
 園推開ひ。と。妻子。一。藤小。居。伊。と。遊興。と。伊氏吉。あり。の事。小。朝。も。出。を
 身。と。運。と。果。を。握。と。想。と。も。い。ん。と。も。ま。る。方。術。を。傳。へ。軍。勢。を。軍。勢。と。て。繼
 藤小さんと。馬。を。一。妻子。と。其。具。を。冷。と。大河内。へ。を。馳。せ。り。こ。ま。下。り。一。登。り。

素為小佐。一。擧。り。り。龍門。儀。ち。又。給。益。を。一。解。の。守。と。再。び。遠。を。と
 織田。領。へ。は。伸。小。及。び。る。ま。い。信。長。大。小。感。と。玉。ひ。一。登。を。り。く。と。伊。小。素。名。の。城。を
 たら。め。素。小。五。下。は。益。を。賜。り。と。是。を。別。て。蟹。の。素。名。二。の。要。に。置。き。と。し。せ
 たり。こ。ま。小。同。一。登。へ。懸。り。素。名。領。の。執。事。を。草。々。の。城。を。伊。氏。吉。が。各。小。一。の。道
 の。并。小。の。伊。氏。家。を。懐。と。過。る。小。野。を。素。名。を。布。し。信。小。も。松。江。の。東。四。野。を
 仁。政。を。治。り。自。己。素。名。解。の。下。姓。町。人。腰。を。懸。り。蘇。を。城。を。と。し。て。之。を。領。と。す
 諸。も。伊。勢。之。舟。氏。古。の。素。名。の。城。を。有。近。り。一。の。兵。趣。を。祈。り。且。國。司。を。親。老。長
 諸。と。連。り。つ。の。外。小。う。ち。伊。勢。の。同。者。と。彼。小。遣。り。と。事。の。實。居。を。據。ら。せ。り。と。小。野
 者。強。く。走。返。り。素。名。を。奪。ひ。一。大。將。の。龍。門。一。登。と。し。り。者。少。く。時。於。方。素。と
 事。を。謀。り。新。小。蟹。江。の。城。を。築。け。今。又。素。名。を。奪。ひ。取。り。且。こ。も。氏。を。取。む。小
 伊。勢。之。舟。自。の。苛。政。不。引。替。入。心。都。く。城。を。小。懐。死。乳。子。の。母。を。と。り。と。如。と。細



蟹江の城兵

飽部左京

敗走せしむ

服部左京

皇目言一故者之

皇目言一故者之

やうき。治伸小老長連もも小汗振り。領分の民筋の如く。帰後ぬらん小宮
 易小征伐を。雖。緒々。所思慮あせ至下と。疎小國。主色を失ひいふ。せん
 と。儀せらるるを。老長。儀。こをを。統て。長。時。素。名。小。使。を。達。す。意。趣。を
 精々。懸。て。國。司。の。幕。下。小。從。者。を。罪。を。報。し。素。名。を。守。ら。せ。尾。張。の。吉。塞
 小。一。と。あ。つ。て。ま。る。多。た。支。母。へ。使。者。を。達。ら。せ。然。る。下。と。衆。強。く。是。小。一。決。
 素。名。へ。使。を。達。し。ら。る。る。聖。日。の。使。者。素。名。小。引。り。一。番。小。對。面。小。目。の。口。法。を
 漣。説。け。し。六。瀧。川。一。番。大。小。英。後。中。も。之。ぬ。使。者。を。裁。り。汝。心。小。我。説。を
 靜。小。し。ゆ。と。兼。所。并。も。遠。瀧。川。一。番。の。應。仁。以。來。亂。國。の。民。は。塗。炭。を。憐。ん。く。
 是。を。救。ふ。為。小。天。下。を。推。行。り。不。仁。不。道。の。賊。を。誅。し。寛。仁。大。勇。の。君。を。稱。
 助。前。の。城。主。之。弟。の。贖。金。小。一。之。民。を。虐。げ。惡。政。日。々。小。増。長。し。割。我。國。小。位。
 分。ら。款。を。防。ぐ。備。も。な。く。一。朝。一。夕。小。居。城。を。多。ひ。己。が。位。不。小。便。更。に。集。り。思。

純の爲と云ふ。そ。思。人。を。西。さ。ま。し。て。奔。り。罪。を。我。小。回。ら。ぬ。勢。別。一。系。の。ま。ご。小。
 富。計。指。揮。あ。ら。ず。經。令。使。を。兼。む。こ。も。國。主。の。政。道。正。し。は。响。ハ。我。軍。一。
 扶助。せ。ら。し。素。山。の。如。く。保。ん。を。と。し。若。し。不。仁。不。義。あ。る。時。ハ。伊。勢。之。所。を。例。
 ごと。く。忽。又。之。を。引。率。し。北。富。一。家。を。伐。滅。し。勢。別。一。系。を。我。有。と。感。さん。汝。歸。し。
 詳。小。國。司。小。弟。と。重。達。せ。ま。と。素。小。相。違。の。返。答。小。使。者。ハ。面。色。大。に。如。く。懼。怖。
 て。近。席。し。ぬ。儲。ま。る。長。嶋。へ。も。使。者。を。遣。し。瀧。川。が。舉。止。悉。く。張。勢。た。素。が
 牙。小。管。長。等。も。不。存。有。や。との。尋。多。り。た。素。も。屢。瀧。川。が。不。討。の。心。小。納。將。が。此
 ハ。懸。て。素。名。小。使。者。を。達。解。江。の。城。を。速。小。返。さ。ら。せ。由。禮。遣。け。し。六。一。番。使
 者。小。素。名。の。ゆ。や。り。作。越。り。趣。を。兼。て。作。一。と。も。能。く。招。元。せ。平。目。ん。小。
 解。江。ハ。素。名。こ。も。危。列。の。界。内。儀。田。家。計。不。成。る。由。小。て。統。小。信。長。上。り。つ。素。平
 之。賜。り。我。之。誓。江。の。城。主。と。ら。む。然。を。ま。る。是。下。の。金。限。り。て。統。成。さ。る。

